

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 32人

② 算数 32人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

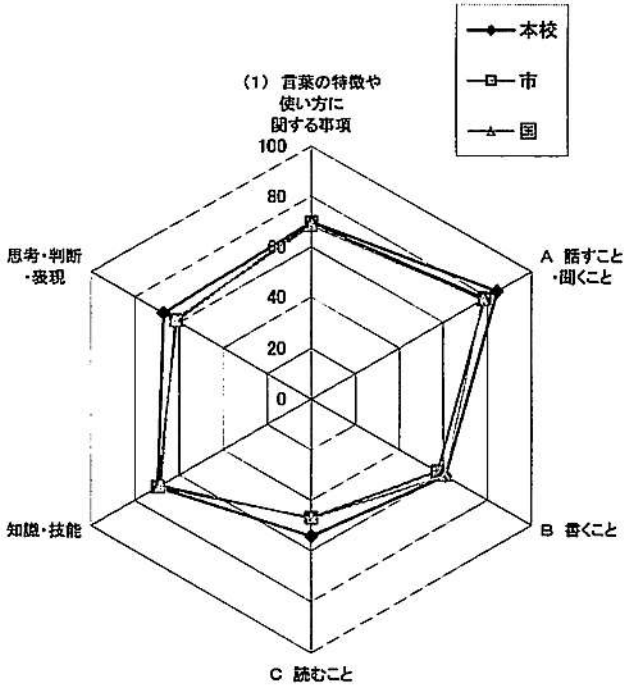
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	69.8	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	84.4	78.7	77.8
	B 書くこと	60.9	57.3	60.7
	C 読むこと	54.2	46.9	47.2
観点	知識・技能	69.8	69.6	68.3
	思考・判断・表現	67.2	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

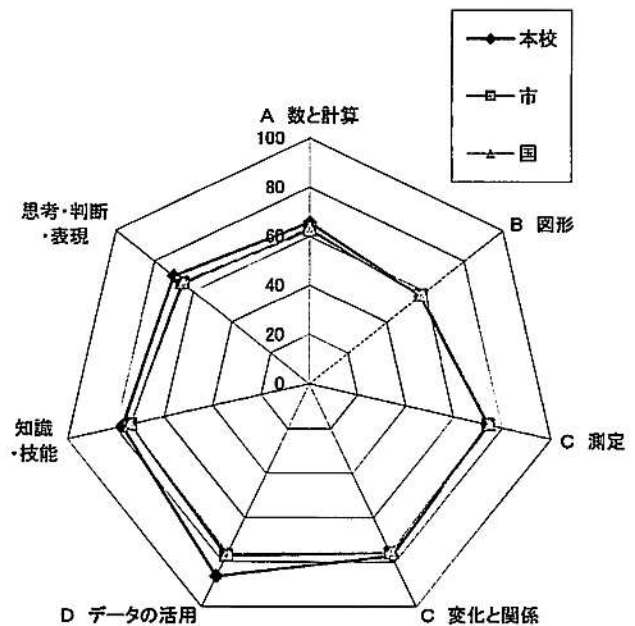
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を0.2ポイント、国平均を1.5ポイント上回った。 ○「文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する」問題の正答率が高く、国の平均を6ポイント以上上回る。 ●「文章の中の主語として適切なものを選択する」問題の正答率が低かった。	・作文を書く際には、主述の関係を意識させ、文と文との意味のつながりに気を付けて書いたり、接続語の役割を正しく捉え、適切に選んで使ったりするよう支援する。 ・新出漢字を繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章を見直す学習などの中で、文脈に沿った正しい使い方を習得するようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を5.7ポイント、国平均を6.6ポイント上回った。 ○「スピーチの練習で話す内容として適切なものを選択する」問題の正答率が高く、国の平均を12ポイント以上上回る。	・学級活動の話し合い活動等を通して、話し方・聞き方をさらに学んでいけるよう、支援していく。 ・総合的な学習の時間において、聞いた内容をどのように活用していくのか、自分が必要な情報は何か、誰にどのようなことを聞くのかを明確にしてからインタビューに臨むように指導していく。
B 書くこと	平均正答率は、市の平均を3.6ポイント、国平均を0.2ポイント上回った。 ○「文章の下書きの一部を資料を用いて詳しく書き直す」問題の正答率が高く、国の平均を2ポイント以上上回る。	・授業や行事等の振り返りで、自分の意見や考えを書く機会を多くもつようにすることで、文章を書くことに慣れ、表現力を伸ばせるようにする。 ・各教科の授業においても、自分の考えをまとめるときには、目的や意図に応じ、伝えたいことを明確にしていくよう習慣づけていく。
C 読むこと	平均正答率は、市の平均を7.3ポイント、国平均を7.0ポイント上回った。 ○「資料の文章が何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する」問題の正答率が高く、国の平均を13ポイント上回る。	・各教科の指導において、調べ学習を積極的に取り入れることにより、書籍やインターネットから適切に情報を読み取れるように指導していく。 ・調べ学習の際には、目的に応じて何のために何を知りたいのか、どのような情報が必要なのかを明確にして読むよう、支援していく。

宇都宮市立西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	65.6	62.6	63.1
	B 図形	57.3	57.5	57.9
	C 測定	74.0	74.1	74.8
	C 変化と関係	77.1	75.8	75.9
	D データの活用	86.3	77.1	76.0
観点	知識・技能	77.4	74.1	74.1
	思考・判断・表現	70.1	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、市の平均を3.0ポイント、国の平均を2.5ポイント上回った。 ○「商が1より小さくなる等分除の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をする」問題の正答率が高い。 ○「示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断する」問題の正答率が高い。	・計算ドリルや計算ストレッチ等を活用し、確実な計算力を身に着けるための反復練習を重ねていくとともに、数を多面的に見て、より能率的に計算する工夫ができるように指導していく。 ・計算に関して成立する性質をより多く見出すために、基礎的な問題に加え、発展問題にも取り組む機会を多くもつようにする。
B 図形	平均正答率は、市の平均を0.2ポイント、国の平均を0.6ポイント下回った。 ○「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く」問題の正答率が高い。 ●「直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ」問題の平均正答率が市の平均、国の平均ともに下回る。	・図形の構成について、筋道を立てて考えを説明することについては、面積を求める式や数などの部分の図形を表しているのかを、視覚的にわかりやすく捉えられるように図に書き込んだり、求める図ごとに立式したりして、段階的に説明できるように指導していく。
C 測定	平均正答率は、市の平均を0.1ポイント、国の平均を0.8ポイント下回った。 ○「条件に合う時刻を求める」問題の正答率が高く、市の平均、全国の平均ともに上回る。 ●「直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ」問題の平均正答率が市の平均、国の平均ともに下回る。	・図形の性質や構成要素の理解を更に深められるよう、具体物を操作して図形を作成したり分解したりしながら、図形を認識する感覚が豊かになるような体験的活動を積極的に取り入れていく。 ・授業の中で個人やペア、グループでじっくり考える時間を確保していくと共に、解答に至った自分の考えを、分かりやすく記述し、説明できるように指導していく。
C 変化と関係	平均正答率は、市の平均を1.3ポイント、国の平均を1.2ポイント上回った。 ○「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する」問題の正答率が高く、市の平均、国の平均を10ポイント近く上回る。	・日常生活の具体的な場面を想起する問題を扱い、数量などの情報を提示しなくても、児童自らが変化に伴う二つの数量を見出すことができるよう、類似問題に繰り返し取り組みさせていく。 ・グラフに表すことによって、資料の特徴や傾向について捉えやすくなることに気付かせ、内容を正確に読み取れるよう指導していく。
D データの活用	平均正答率は、市の平均を9.2ポイント、国の平均を10.3ポイント上回った。 ○「本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ」問題と、「本の貸し出し冊数について分かることを選ぶ」問題の正答率が100ポイントである。	・一つのグラフの読み取りだけでなく、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断できるよう、授業の中でも身近な話題を取り扱って考える場面を設定していく。

宇都宮市立西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○算数の学習においては、ほとんどすべての質問で肯定的な回答であった。問題の解き方が分からないときは、ペア学習やグループ学習などいろいろな形態で考える時間を確保し、自力解決できるよう場の設定を工夫する。

○「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問は、「当てはまる」と回答した児童の割合が100%であり、国語科の重要性を理解し、学習に取り組んでいることが伺える。

○英語への関心が高い。学校以外で触れる機会が多く、保護者の関心も高い傾向がある。

○「学習の中でICTは役に立つ」とすべての児童が肯定的に捉えている一方で、「授業の中で意見交換や調べ学習のためにどの程度利用していますか」の回答の割合は、低い。しかし、回答時期はクロームブックの導入直後のため、現在では、クロームブックを活用した意見交換や調べ学習が各教科にて進められている。

○基本的な生活習慣である「朝食」「就寝時刻」「起床時刻」について、毎日時間を守って生活できていると回答した児童の割合が多い。

●国語の「国語の授業では、目的に応じて自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか」の質問では、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と否定的な回答をした児童の割合が31.2%と高いことから、「書くこと」の学習活動に対し、消極的であることが分かる。授業では、教科書において目的に応じて自分の考えを工夫して書く型を繰り返し指導することで、児童が自信を持ち、自らの文章に反映させることができるよう指導していく。

●平日のゲームをする時間が4時間以上が15.6%と長い傾向がある。ゲーム時間が長いことで、人とのコミュニケーションを図る機会が不足しがちになることから、「自分の思っていること、感じたことを言葉で表現したり文章で表したりできる」の回答割合が低いこととの関連が推測できる。

●「休校中に規則正しい生活を送れなかった」との回答の割合が高いことから、自力解決の力を身に付けさせる手立てが必要であることが分かる。現在は、クロームブックが一人一台導入され、児童が家庭にいる場合でも、担任やクラスメイトと学習を進められるよう、環境が整えられ、使い方の指導が進められている。

宇都宮市立西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
個に応じた指導	パワーアップタイムとして、朝の学習の時間に児童が特に取り組みたい教科の内容を担当以外の教員が支援することで少人数制での指導を継続している。	「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか」の質問に対し、本校の回答は宇都宮市の平均を下回っている。一方で「勉強していて、面白い、楽しいと思うことがある」という児童の回答は85%であり、児童が苦手を克服し達成感を味わえるよう、継続して個に応じた指導体制を整えていく。
話し合い活動の充実	自分の考えを相手に伝えたり、友達のことを自分と比べながら聴く時間を確保している。従来のペアやグループ学習から、タブレット端末を用いた意見交換や教師が児童同士のコーディネートするなどを、各教科や単元に合わせて学習形態を工夫し、少人数から全体へと広めていけるようにしている。	「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広めたりすることができている」の質問では、肯定的に回答している児童が8割であった。今後も、引き続き、他者の意見と比べながらよりよく考える学級活動の力を入れ、そこで学んだことを各教科の話し合い活動に生かすよう継続して指導していく。
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業では、めあての確認、終末では学んだことの振り返りを行うことで、分かったことを明確にしている。自分の考えを分かりやすく書いたり、友達の考えから考えを深めたりできるような指導に努めている。	学習課題を明確にし児童に理解させたうえで把握させ、授業を展開するよう努める。 授業のまとめについては、自分の言葉でまとめることで、学習の理解が深められるよう工夫するとともに、振り返りでは、個人内評価を取り入れるなど児童の意欲の向上に努める。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基礎基本の習得のための学習習慣の確立 ・課題に対し、粘り強く取り組む姿勢の育成	・個に応じた指導 ・宇都宮モデルの活用 ・特別活動における指導	・習熟度別学習や少人数指導、パワーアップ学習等の個に応じた指導の継続。 ・特別活動の話し合い活動に重点を置き、児童の自己肯定感を高めることで、自分の意見に自信をもち苦手や困難な課題に対しても根気強く取り組める児童の育成に努める。